



# ケンブンスイッチ

11月号



## 印刷会社が目指すカーボンニュートラルとは

カーボンニュートラルとは、温室効果ガスの大部分を占めるCO<sub>2</sub>=カーボンの排出量と吸収量を均衡させることを意味します。CO<sub>2</sub>濃度は産業革命以降、化石燃料の使用や森林の減少などにより4割も増加しており、地球の平均気温は約1℃上昇。このまま取り組みを行わないと2050年には2℃、2100年には4℃上昇すると予測され、生態系に深刻な影響を及ぼします。そこで21世紀中の気温上昇を「+2℃より充分に低く」することを目指すパリ協定が2015年に採択され、日本政府も2050年までにカーボンニュートラルを目指すことを2020年10月に宣言しました。

こうした動きを受けて、印刷の業界団体である（一社）日本印刷産業連合会は「2050年カーボンニュートラル宣言」を2022年3月に発出。省エネによるCO<sub>2</sub>排出量抑制、再生可能エネルギーの導入、カーボンニュートラル社会への印刷の貢献、などを業界全体で目指す事としました。研文社尼崎工場でも、電力に地元ゴミ焼却施設でつくられる「CO<sub>2</sub>排出ゼロ電気」を導入、製版には

カーボンゼロ・プレートを用い、刷版ではアルミプレートをクロードループリサイクルする仕組みを取り入れるなど、CO<sub>2</sub>の排出削減に取り組んでいます。今後は、個々の印刷物のCO<sub>2</sub>排出量を算定してカーボンオフセットにより実質ゼロを目指す「環境配慮型プリント」に取り組んでいきます。

